



成果指標				
成果指標	入居者数を8人とする。			
指標設定の考え方	空部屋を無くし、利用率の最大化を図るため。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	8	8	8	8
実績	6	7	8	8

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	入所者も増加し、一定の成果をあげているものとする。建物の立地条件により湿気が高く、老朽化も進行しやすくなっており、建物の維持管理に注意するようにしたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	高齢者共同居住施設として設置している。入所定員8人に対して7人が入居しており、活用されている。老朽化の進展に留意したい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題